

教育委員会だより

令和7年5月22日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

仲間とともに ～インクルーシブ教育の推進～

右の写真は、陶都中学校で車いすを利用して生活している生徒が、仲間と体育の授業に取り組んでいる様子です。この生徒は、昨年度まで肢体不自由のために東濃特別支援学校の小学部に通っていたお子さんですが、中学校入学をきっかけに地元の公立中学校に進学させてほしいという申し出がありました。そこ



で教育委員会として通常の学校で大勢の生徒と一緒に活動することが可能なのか検討しました。最大の課題は安心安全な学校生活が送れるだろうかという点です。中学校では、自教室に加えて特別教室で授業を受けることが必要であり、休み時間内に階段を使って特別教室に移動することが不可欠になります。また、車いすで利用可能なトイレなど、施設面が十分に整っていないかもしれません。そこで、バリアフリー環境が比較的整備されている陶都中学校を、肢体不自由のお子さんを受け入れる拠点校として位置づけ、令和7年4月より校区内外の生徒を受け入れることとしました。新学期のスタートから今日まで、多くの仲間とかかわりながら、学習も生活も大変充実した学校生活を送れているようです。それは周りの生徒や職員のサポートと、何より本人の学校生活に取り組む前向きな姿勢の結果だと思っています。今後も多様な教育的ニーズに対応し、願いに応じて最適な学びを実現する教育（インクルーシブ教育）を推進していきたいと思っています。

スポーツ・文化活動に熱中できる環境づくり

教育委員会では、部活動の地域移行におけるジュニアクラブや中体連が抱える課題の解決に向けて、今年度から事務局内に担当職員（部活動・クラブ推進員）を新たに配置しました。長年にわたって中体連や部活動、ジュニアクラブ活動に尽力された元校長で、学校、指導者、保護者、スポーツ協会の方等と相談しながら精力的に活動しています。少子化による加入者減少や、大会出場条件に関する

問い合わせ、活動内で発生する関係者とのトラブル等、解決しなければならない課題が多く存在しています。ジュニア期の子どもたちがやりたいことに思い切り打ち込める環境を整えられるよう、ジュニアクラブ活動の在り方を再検討し、環境整備を進めていきたいと思っています。

多治見型一貫教育の推進

笠原小中学校（東濃では初、県内で8校目（現時点）の義務教育学校）の令和8年4月開校に向け、ソフト面・ハード面の準備が順調に進んでいます。笠原地域では、これまでの幼保小中一貫教育の歩みが土台にあり、今後の笠原小中学校の教育活動が、本市はもとより周辺市町村のモデルとなることが期待されます。

一方で、小中一貫教育についてはすべての中学校区で推進していくものと考えています。令和7年度版『多治見市小中一貫教育基本方針』をもとにして、中学校区内にある幼保小中で情報交流会を行い、各園・学校の教育方針を共有します。また、授業参観などで互いの教育活動を見合うことで、同じ方向性をもって教育を進めていきます。「それぞれの地域で一人一人の子どもを一貫した教育で。」各学校はこの基本方針を踏まえ、中学校区単位で特色ある教育活動を展開していきます。



“わたしの主張 2025” ～私の主張が未来を創・造る～

毎年5、6月には、13の各小学校区で、青少年まちづくり市民会議の主催による「わたしの主張大会」が行われます。小中学校を代表する地元の児童生徒の皆さんが、ステージの壇上から地域の皆さんへ向かってその思いを堂々と発表してくれます。また、主張大会を運営するスタッフも校区の中学生の皆さんがボランティアとして司会や受付など活躍してくれています。そして、各地区で選ばれた代表者が集結して、6月14日（土）に多治見市大会が行われます。児童生徒の活躍する姿から得られる感動は、会場でなければ味わうことができません。多治見市の未来を担う小中学生の皆さんの熱いメッセージを、ぜひ多くの皆様に会場に足を運んでいただき、目と耳と心で感じていただければと思います。

